



岡山県矢掛町の概要

矢掛町は、岡山県の南西部に位置し、北西に井原市、南に笠岡市、浅口市と隣接し、東に倉敷市及び総社市と接しており、面積は、90.62km²です。

一級河川高梁川の支流小田川の流域に開けた町で、古くは奈良時代の右大臣吉備真備公を輩出し、江戸時代には参勤交代の旧山陽道の宿場町として栄え、当時の本陣・脇本陣が、そろって健全な状態で保存され、共に国の重要文化財に指定されているのは、全国でも矢掛町のみ。

数年前、天璋院篤姫が、江戸に嫁ぐ際、矢掛の本陣に止宿されたとの文献が発見され話題になりました。



矢掛町のデータ (平成26年11月1日現在)

男 7,156人 女 7,844 計15,000人
 世帯数 5,347世帯
 面積 90.62km²
 高齢化率 35.65%

矢掛町の概要 その2

小田川とその支流である美山川流域に開けた矢掛町は、標高が15m～50.5mの比較的緩やかな丘陵に囲まれた盆地をなしています。

気象は、瀬戸内海気候に属し、温暖で降雨量が少なく、災害なども少ない比較的安全な地域です。

毎年11月第2日曜日、当時の衣装をまとった約80名の行列が、「下に、下に」の掛け声により旧山陽道を練り歩きます。約3万人の観光客でにぎわいます。

今年は、私も殿様で参列。あいにくの雨でしたが・・・。



宿場まつり 大名行列



旧矢掛本陣石井家住宅



旧矢掛脇本陣高草家住宅